

**武蔵水路沿線の桜並木保全に係わる
枝・根の切断方法について**

平成 23 年 6 月

**独立行政法人水資源機構
武蔵水路改築建設所**

根・根の切断方法の作成にあたり

武蔵水路の改築工事に伴い、水路沿線の桜の一部が枝や根の切断が余技なくされる。改築工事にあたっては、水路沿線の桜を保全していくこととしており、こうした工事の影響をできるだけ低減するための枝・根の切断及び養生方法について、樹木の専門家（樹木医）から指導を得た。本マニュアルは指導結果を踏まえた施工方法を示したものである。

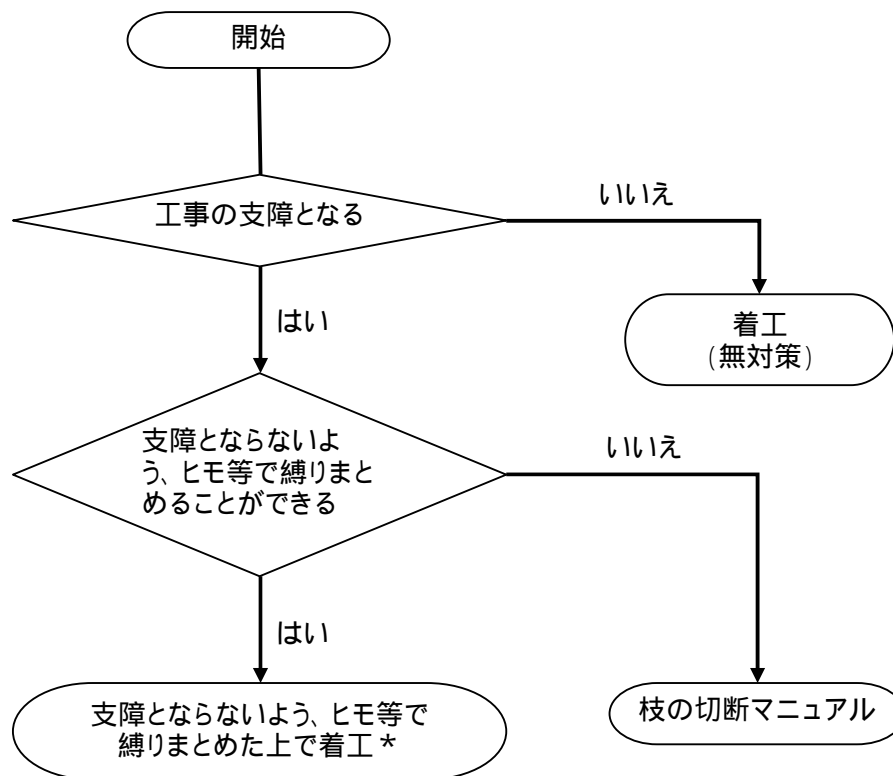
樹木の専門家（樹木医）

下表に示す樹木医より指導を得た。

| 氏名 | 所属 | 役職 |
|-------|--------------|------|
| 小林 千秋 | 日本樹木医会 埼玉県支部 | 副支部長 |
| 野村 静雄 | 日本樹木医会 埼玉県支部 | - |
| 樋口 裕仁 | 日本樹木医会 埼玉県支部 | - |

枝編

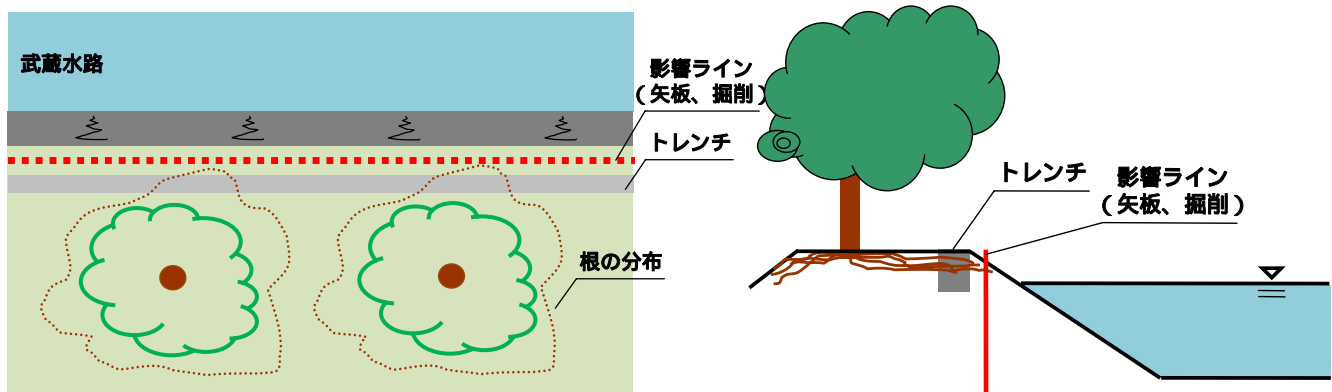
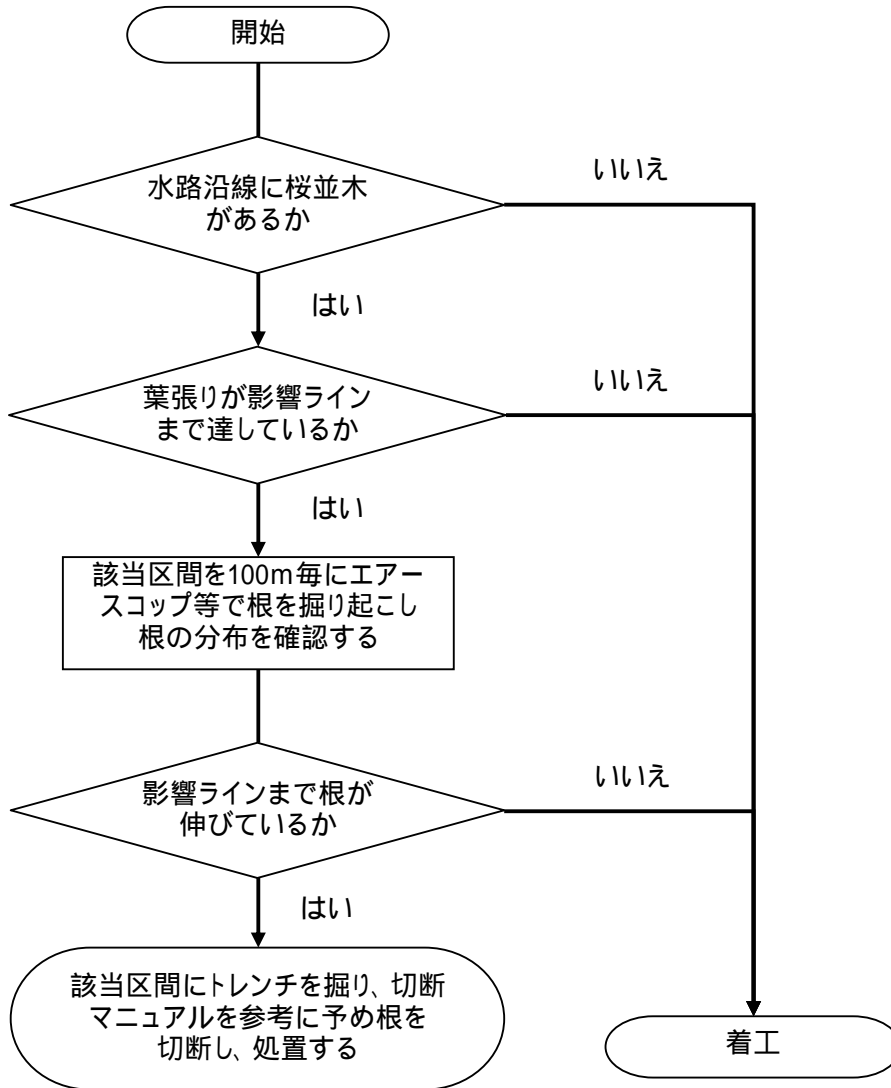
桜の枝に関する施工は、以下のフローに従うものとする。



* 長期間縛ったままであると、樹形に影響を来す恐れがあるため、支障と
ならなくなった時点で解放すること

根系編

桜の根に関する施工は、以下のフローに従うものとする。



イメージ図

枝・根の切断マニュアル

枝の切断マニュアル

1. 最適切断時期

落葉し、桜が休眠に入った冬から早春（11月～2月ごろ）が最適切断時期である。

施工の工程上、止む得ない場合落葉前に着手する。ただし、乾燥により幹や枝を傷めないよう、酷暑の時期（7月～9月）は極力避けること。

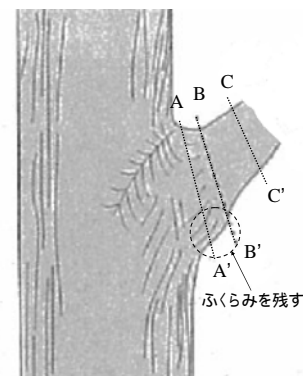
2. 枝の切断

幹の分岐点から切断する場合

A-A'：幹まで傷つけているため、腐れが入りやすい。

B-B'：理想的な切り方。カルス*が切断面を覆う。

C-C'：残った枝が邪魔をしてカルス*が切断面を覆うことが出来ないため、腐れが入りやすい。



枝の切断位置（幹の分岐点から切断する場合）

枝の途中から切断する場合

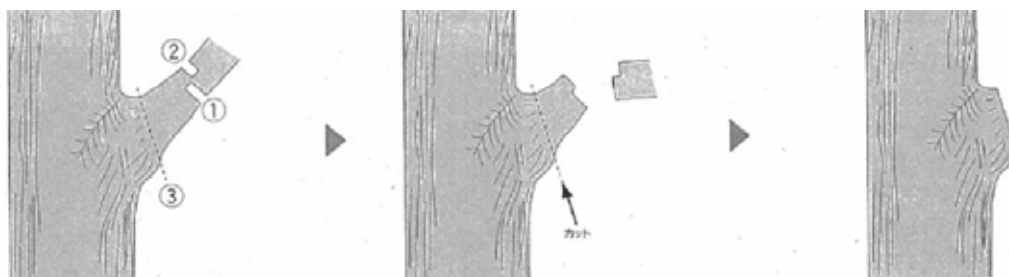
枝が分かれている箇所では切断することとし、枝間では切断しない。



枝の切断位置（枝の途中から切断する場合）

3. 枝切断における留意点

- ・ 切り口（断面積）はできるだけ小さくなるよう切断する。
- ・ 一度に枝を切断しようとするすると枝の重さで付け根から避け、樹皮がめくれる恐れがある。切断位置でいきなり切らず、以下の手順にて二段階に分けて枝の切断を実施する。
切断位置から若干余裕を持たせた場所で、下側から切り始め、半分ほど切れ込みを入れる。
1～2cm 枝先側を上から切断し、枝を落とす。
切断位置を手のこ等できれいに切り落とす。



切断手順

- ・ 切断面には癒合殺菌剤を塗布すること。
- ・ 大枝を切断する際は、幹焼け等防止のための措置をとること。
- ・ 大枝を切断する際は、安全に留意すること。

4. 枝の切断手順



手順 1 ; 切断する位置を設定する。



手順 4 ; 切断位置を手のこ等を用いて、切断面が平滑になるよう、きれいに切り落とす。



手順 2 ; 切断位置よりやや枝先側の位置を下側から切り始め、半分ほど切れ込みを入れる。



手順 5 ; 切断部分



手順 3 ; 手順 2 の切れ込みより 1~2cm 程度枝先側を、上から切断し、枝を落とす。



手順 6 ; 切断面には、癒合殺菌剤を塗布する。

根の切断マニュアル

1. 最適切断時期

落葉し、桜が休眠に入った冬から早春（11月～2月ごろ）が最適切断時期である。

施工の工程上、止む得ない場合落葉前に着手する。ただし、乾燥により根を傷めないよう、酷暑の時期（7月～9月）は極力避けること。

2. 根切断における留意点

- ・根は、切り口ができるだけ小さくなるように垂直に切断する。
- ・切断は、手のこや剪定バサミ等鋭利な刃物で切り口がきれいになるよう丁寧に行う。
- ・チェーンソー等を使う場合は、切断する部分に数 cm 余裕をもたせて切断し、その後手のこや剪定バサミ等鋭利な刃物で切り口がきれいになるよう丁寧に行う。
- ・切断後、すぐに埋め戻しができない場合は、根が乾燥しないようにブルーシートやムシロ等で養生する。
- ・切断した根の周辺は、良質土（黒土又は植込地用土）にパーク堆肥*を 2 割程度混ぜた土で埋め戻しを行う。
- ・パーク堆肥は C/N 比が 20～25%程度のものを使用すること。
- ・切断面には癒合殺菌剤を塗布すること。
- ・エアースコップを使用する際は、飛散に注意すること。



エアースコップ使用状況（飛散防止対策例）

3. トレンチの掘削について

- ・掘削時のバックホウは、不意に根を切断しないよう十分注意し、薄く剥ぎ取るように施工すること。
- ・範囲は必要な範囲とし、樹間を行わない。
- ・掘削中に出てきた根はその都度処置すること。

3. 根の切断手順



手順 1 ; 切断箇所を設定する。



手順 4 ; 切断面には、癒合殺菌剤を塗布する。



手順 2 ; 切り口がきれいになるよう丁寧に切断する。



手順 5 ; 良質土（黒土又は植込地用土）にバーク堆肥を 2 割程度混ぜた土で埋め戻しを行う。



手順 3 ; 切断部分

〔用語集〕

* カルス

植物体が傷を受けたときに、傷口をふさぐために増殖する治癒組織。切断面を覆い腐朽の被害を抑える。

図はカルスが傷口を覆ってきている状態。



* 癒合殺菌剤

剪定・整枝時の切り口に塗るペースト状の殺菌剤。雨水や腐朽菌の侵入を防ぐ。発根促進剤も含まれるため、追加薬剤を塗布する必要はない。

* バーク堆肥

コルク化した樹皮（bark）を材料にした堆肥。吸湿性や通気性に優れる。C/N比が20～25%程度のものを使用する。